



きらきら☆いわてっこ

今回は3歳未満児の保育から、子どもの姿の読み取りについて考えてみましょう♪



「初めてのブロック楽しいね」 2歳児
偶然見つけた‘タイヤをつなぐ棒，でブロックをたたくといい音がします。隣にいる子も興味をもって二人でトントン…。

⇒ 組み立てるだけでなく、たたくことで偶然見つけた音への興味・関心が遊びになっていきます。五感を働かせ環境に関わっています。

「わあ！ちくちくがいっぱい」 1歳児
やきいもを作るためのもみ殻に興味をもち、手ですくってはこぼすことを繰り返し楽しんでいます。
⇒ もみ殻の触り心地や、指の間からこぼれ落ちる感覚を楽しんでいます。低年齢の子どもは、体全体で様々な対象に触れ、その対象についていろいろなことを感じ取っています。その喜びを保育者が言葉にして共感的に関わることで豊かな感性が育まれていきます。



「ようやくとどいた！」 2歳児

園庭で切り株を見つけ、一人で何度も帽子を投げて切り株に掛けることに挑戦しています。少しずつ投げ方が上手になってきました。

⇒ 子どもはおもしろいことを考えるのが得意。子どもの遊びを見るときに、どんな思いで遊んでいるのかな？と想像力を働かせましょう。繰り返し挑戦する様子を言葉にして励ましたり、満足するまで取り組める時間を保障したりすることが大切です。

自分で知りたがったり試したりしている時、「それをしてはダメよ」という大人に出会うのか、「おもしろいね、どうなっているのだろうね」と共感してくれる大人に出会うのかで、子どもの育ちが違ってくるのではないのでしょうか。

遊びのきっかけとなる環境を考える🌸あそびのタネ



子どもたちが遊びこんでいる場面には、保育者が意図的・計画的かつ柔軟性をもって蒔いた「あそびのタネ」があります。今回はそんな「あそびのタネ」を、もの・人・ことで紹介します。

もの 透明なフードパック →→→ 何か入れたら輪ゴムで止めるだけの手軽さ、扱いやすさ

捕まえた虫を入れて観察したり、大きい組さんの真似をして葉っぱや石を拾って入れたりできる、三角や四角の透明なフードパックは大人気です。工夫を凝らして作った「秋のお弁当屋さん」は大繁盛でした。



人 誕生会の出し物 →→→ 「見る」ことで刺激を受け、「やってみたい」へ

保育者が演じて見せたオバケが登場する創作劇が刺激になって、子どもたちの中に「私たちもオバケになって遊びたい」という思いが湧き上がってきました。オバケになるだけでなく、少し前に掘ったさつま芋の蔓と段ボールを使ってオバケ屋敷を作るなど、どんどんイメージを広げていきます。作っては遊び、また作っては遊び・・・



魔女の帚であつという間にきれい！



こと 「宇宙遊学館」へ園外保育 →→→ 「わくわく」と「学び」を自分たちで再現

遊学館で観たシアター。地球や惑星の美しさ、表面温度と色の関係、様々な星々のきらめき・・・子どもたちの心は、「わくわく」と未知の世界への探求心でいっぱいになりました。そして、自分たちが感動した世界を再現してみんなにも見せたいという思いにつながりました。何度も話し合い、どうすればよりきれいな流星群を天井に映せるか、惑星をスクリーンに映せるか試行錯誤を重ねました。



進行役の友だちの合図で電気が消えます。ドキドキ！



お知らせ

「令和4年度岩手県幼児教育フォーラム」を開催します！

12月16日(金)13:00～ 岩手県民会館中ホール 基調講演 秋田 喜代美氏

詳しくは いわて幼児教育センター(019-629-6149)まで

県内各地の園の先生方、そしてその先にいる子どもたちのウェルビーイング(幸福)をめざしていきます。